

平成30年度 学校関係者評価報告書

鳥取県立米子西高等学校  
校長 富田 運一

| 評価日   | 平成31年2月13日(月) |   |
|---|---------------|---|
| 評価・提言   |               | 学校の所見・改善策等  |
| <p>1. 今年度の自己評価について</p> <p>(1)重点目標の達成状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「わかりやすい授業をしているか」と「親身な指導をしているか」の2つの設問に対して、保護者はどちらもほぼ同じ評価だが、生徒は前者の評価が低い。成績や学力の伸びに対して、生徒が不満を持っているのではないか。</li> <li>・自己評価の基本的な生活習慣の確立に関する評価が低い。また、アンケートでも特定の学年の「学校への満足度」が低い。何か原因があるのか。</li> <li>・自己評価の保護者との関係は高評価である。また、アンケートでも家庭内での会話の比率が高いように思うがそれはなぜか。</li> </ul> <p>(2)説明・公表について<br/>特になし</p> |               | <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の評価が実際のものであると思う。目標値にも届いていないので問題意識を持っている。</li> <li>・直接的な原因は不明だが、推薦入試をやめた学年からその傾向が見られるようになった。</li> <li>・他の調査でも朝食をきちんと食べている生徒、お弁当を持ってきている生徒の割合が高い。きちんと子どもに目配りをしている家庭が多いのだと思う。</li> </ul> |
| <p>2. 今年度の県立学校裁量予算による特色ある学校運営の状況について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「みらいチャレンジ活動」の成果発表会は、フィールドワークやアンケートも取り入れ大変良かった。探究的な活動でいろいろな刺激を受けることが生徒の学習へのモチベーションアップにつながると考える。</li> <li>・直接人から話を聞くことで「進学先で何を学ぶか」が明確になり、モチベーションもアップし学習意欲の向上にもつながる。そのような機会を設けていることは大変良いと思う。</li> <li>・「キャリア教育＝職業教育」「資格志向」が必要以上に強くなっていないか。</li> </ul>   |               | <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年は運営や進行も生徒で行うことができた。本校の中核事業として今後一層充実させたい。</li> <li>・卒業した大学生を招いた講演会や社会人を招いての講演会を実施している。今後もそのような機会を大切にしたい。</li> <li>・学力の汎用性を大切にしたい。その意味でも探究的な活動の「みらいチャレンジ活動」を充実させたい。</li> </ul>          |

### 3. 取組改善のための提言

- |   |   |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"><li>・他校で行っていることだが、生徒が出身中学校に行っ<br/>て学校生活について説明する機会を設けてはどうか。</li><li>・「みらいチャレンジ活動」にもっと地域の社会人の力<br/>や能力を利用してはどうか。また、大学生を交えた活<br/>動にしてはどうか。調査力や表現力の向上につながる<br/>と思う。</li><li>・アクティブ・ラーニングに対しては1つの学校ではな<br/>く、広く学校間でも取り組んではどうだろうか。教員<br/>間の広がりも生まれると思う。</li></ul> | <ul style="list-style-type: none"><li>・難しい部分もあると思う<br/>が、検討したい。</li><li>・今年は昨年よりフィールド<br/>ワークや調査研究を行っ<br/>た活動が増えた。さらに、<br/>地域との関わりが増える<br/>方向で指導したい。</li><li>・アクティブ・ラーニング型<br/>授業は教員の意識の中<br/>にはかなり根付いてきたと<br/>感じているが、まだ教員間<br/>の温度差がある。エキス<br/>パート教員や、示範授業、研<br/>究授業を通じて他校とも<br/>連携していきたい。</li></ul> |
|---|---|